

姉妹・友好都市

SISTER CITIES NEWS

ニュース

協会報

第 15 号

平成 2 年 10 月 5 日発行

編集・発行

茨本市国際親善都市協会



花博「茨木市の日」オープニング・セレモニー

目次

- 音楽で深まるミ市とのきずな (ユースオーケストラ・ブルーグラス)……………P 2・P 3
- 花博「茨木市の日」賑わう……………P 3
- スポーツ交流で青少年が育つ (サッカー・野球)……………P 4・P 5
- 人物紹介—スベン・ホームさん……………P 6
 - 秋の小豆島を訪ねてみませんか……………P 7
 - 安慶市書画展を開催……………P 8

音楽で深まるミ市とのきずな

ユースオーケストラ



▼花束を受ける
ジョーンズ博士



本協会が迎える最大規模の訪問団となった「ユースシンフォニーズ」が7月、本市を訪れ、市民会館（ユアアイホール）大ホールで公演しました。

「ユースシンフォニーズ」は、ミネソタ州ミネアポリス市とセントポール市の双子都市で、地域の音楽的才能を持つ若者達の交響乐的必要性を満たすために、1972年に創立されており、今回は、著名な指揮者であるウィリアム・ジョーンズ博士の率いる交響楽団員71人とその家族33人からなる訪問団で、6月24日ミネソタ州ハイランドヒルズにおいて催されたミッドサマー・ミュージックフェスティバルでの公演を皮切りに、香港・北京・

東京とコンサートツアーを行ってきました。

7月8日夕方、JR新大阪駅に到着後、青少年センターでホームステイ37家庭と対面し、5日間にわたる茨木滞在を始めました。

9日・10日午後の2回のリハーサルをこなした後、10日夕方の公演では、約800人の観客を集め、チャイコフスキーのロココ変奏曲やドヴォルザークの「新世界」最終楽章などのクラシックにウエストサイド物語などポピュラーソングを織りまぜた華麗な演奏を披露し、観客の熱い拍手に応じては、「サムホエア・オーバー・ザ・レインボー」などアンコール曲で私たちを酔わしてくれました。

日本の良さを再認識



新郡山二丁目 大石紀子

ホームステイを引き受けた
たび、気持ちよく泊っていただくための「我家の総点検」と思っています。来られる方は、日本の生活を知ろうという気持ちで来られ「こんなところは良いね」と言われ、改めて日本の良さを教えられました。

今回のお2人は、家庭での“しつけ”もよく出来ており、感心いたしました。

我が家の財産が増えて



美穂ヶ丘 篠原孝子

ジュリーとエイジーの2人のかわいいお客様が、バイオリンとオーボエを抱えてやってきた。これは楽しい5日間になりそう!!と直感した。

2人は、我が家の一員として溶け込み、私たちにとって本当に楽しい日々となった。夜遅く近所を気遣いながら聞いた2人の歌声、バイオリンとオーボエの音色。また、一つ我が家の財産が増えた気がします。

ホームステイの思い出

ブルーグラス



7月27日から8月3日まで、ミネアポリス市との姉妹都市提携10周年記念行事の一環として、「ポップ・ワグナー&ストーニー・ロンサム」という音楽グループが来茨しました。

アメリカのすばらしい草原の叙情と楽器を奏でながらの楽しい歌声、そして歯切れのいいハーモニーを特徴とするブルーグラスに加え、コメディータッチの投げ縄ショーも盛り込んだ彼らのステージは、観衆を魅了しました。

全米ネットワークのテレビ番組「高原の我が家」

へのレギュラー出演でも有名な、美しい歌声のケイト・マッケンジーほか5名は、茨木フェスティバル、市民会館（ユーアイホール）大ホール、そして「国際花と緑の博覧会」の“国際交流都市－茨木”のテーマで開催された「茨木市の日」（7月31日）の催しの中でも2回の公演をしました。

なかでも、「国際花と緑の博覧会」－茨木市の日では、彼らの音楽はもちろんのことブライアン日本語（大阪弁も上手）もさえわたり、2回目の公演では、ポップも火をつけた投げ縄の芸を披露するという熱演ぶりで、アンコールが2回もあり、奏者と観客が一体となったすばらしい公演で「国際花と緑の博覧会」に来場していた大阪府下

はもちろんのこと日本全国からの人々に“国際交流都市－茨木”を印象づけました。



花博「茨木市の日」賑わう



去る7月31日、花博会場の「いちょう館」において、“国際交流都市－茨木市”をテーマに「茨木市の日」が開催されました。

開会式には、姉妹都市・ミネアポリス市から、副市長のリップ・ラブソン氏、前市議会議長のアリス・ラインビルさん、ミ市文化協会会長のペギー・スパージョン夫妻、ブルーグラスの音楽グループ、少年野球チーム、そして、国内の姉妹都市・内海町からは、川西町長、森議長が出席しました。



◀内海町民による幟差し

茨木市からは、重富市長、小矢田議長をはじめ市民の方々が多数出席し、はなやかな雰囲気の中で、各市の代表が祝辞を述べました。

また、好きやねんプラザでは、獅子のせかしや幟差しの内海町の伝統行事、ミ市のブルーグラスの演奏、安慶市の物産展示やビデオ紹介、また、茨木市内の高校・大学のグループなど多彩な催しが繰りひろげられ、多くの人々が見物に訪れ、終日賑わいを見せていました。

スポーツ交流で青少年が育つ

サッカー



▼ コーチ・スタッフ



ドーム球場での開会式入場行進

USA杯少年サッカー大会参加のため、本市チームがミネアポリス市を訪問するのは、今年で4回目となりました。

2チーム編成で、中見団長以下総勢40名が、7月14日～24日までの日程で訪れました。

初日は、ロサンゼルスへ到着してすぐデイズニールランドへ行き、明後日からの試合に備え、ひとときの休息をとりました。

翌日、待望のミネアポリス市へ到着。ホストファミリーの温かい歓迎を受け、それぞれの家庭へ。23日までの滞在中楽しい経験をしてきました。

この大会には、20か国から400チームが参加し、16日の開会式に始まり、6日間に及ぶ試合の結果、Aチームが3位入賞を果たしました。

また、大会期間中私が驚かされたことは、30面以上もとれる整備された芝生のフィールド、そして、各国選手の体格の良さでした。

この夏参加した選手達は、現地でのいろいろな経験と大いなる友情に、確かな自信をもって帰ってきたと思います。

そして、今後この貴重な経験を生かし、大きくはばたいて欲しいと思います。(随行：中井和規)



夢に見たアメリカ

北陵中学校2年 世古昌平

夢にまで見たアメリカ。その夢は、開会式に大きく現われた。自由気ままな入場行進に、枠にとらわれないアメリカ人のスケールの大きさを感じとれた。

ホストファミリーでは、家族同様に振る舞うことが出来た結果、試合に集中し勝って行けたと思う。三位入賞したこととともに、今回の経験を今後に生かし、一層飛躍したいと思う。



ホームステイをして

東雲中学校1年 北村武志

サッカーの試合には負けてしまいましたが、そのかわり、ホームステイ家庭の人たちと湖へボート遊びに出かけたり、買い物に行ったりしたことなどたくさんの思い出ができ、本当に良かったと思いました。また、この大会に参加させてくれた親にお礼を言わなければいけないとも思いました。そして、外国人でもやっぱり同じ地球人なのだと思うことができました。

USA杯に参加して

野 球



▼ 試合後、スイカ割りで交歓



5回目の訪問となるミ市少年野球チーム（ミネソタ・ゴールデン・ゴファーズ）とその家族総勢38人が、今夏、ガーリィ・ダウニング監督に率いられ来茨しました。

今回は、7月26日～8月13日の19日間という長期滞在となりましたが、その間に、茨木フェスティバルや花博「茨木市の日」に参加し、また、島本町へも訪問・滞在しました。

茨木では、市内中学生と軟式野球7試合、シニアリーグやナニワボーイズと硬式野球9試合を行い、結果は14勝2敗とゴファーズの圧倒的な勝利

でした。“基本に忠実で積極的な攻撃をする彼らから多くのことを学んだ”との感想が対戦したチームの監督や選手のなかから寄せられました。

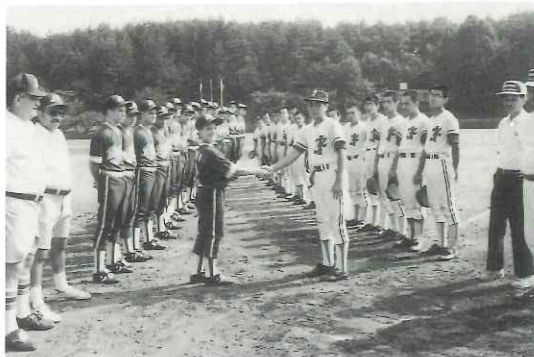
また、野球以外にもタッチフットボールやバスケットボールの交歓試合を行い、いずれもゴファーズが大勝しました。野球だけでなく、いろいろなスポーツに取り組んでいる彼らの姿勢はすばらしいものでした。

各種スポーツ交流や3日間のホームステイなどを通じて、またひとつ新たな友情と国際親善の花を咲かせ、ゴファーズは帰国しました。



◀ バスケット交歓試合
(市民体育館)

タッチフットボール ▶
(中央公園)



健闘を誓いあい“握手”

協会会員募集

本協会では、姉妹・友好都市交流をはじめ、国際親善に熱意を持っておられる方々の入会を心からお待ちしています。

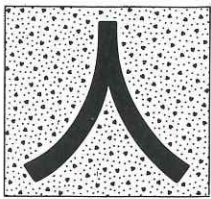
会員には、年2回発行しています協会報などによる本市国際活動情報の提供、会の催す姉妹・友好都市との交流行事・ゴルフコンペ等へのご案内をいたします。

<会費(年額)>

個人会員 (一般)	2,000円
(学生)	1,000円
団体・法人会員	一口 5,000円

<申込先>

協会事務局 (市役所 3階 自治推進課
国際交流係 電話 22-8121 内線2143)



国際交流の 問題点

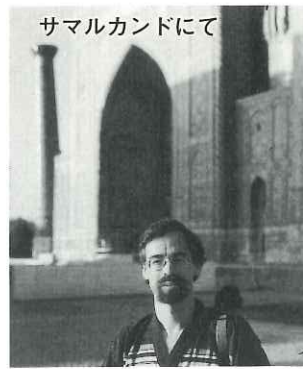
スベン・ホームさん

今回は、茨木市にながくお住まいで、現在、大阪外大講師のスベン・ホームさんに、日本の国際化のむずかしさを語っていただきました。

国際交流は勿論、言語的、肉体的、経済的、文化的、情緒的なコミュニケーションを含みます。社会のあらゆるレベルでの人間同士のコミュニケーションが国際交流の鍵ですから、日本人同士でコミュニケーションする能力が少ないことは、国際化の道において克服しなくてはならない障害です。

しきたり、習慣、宗教などの文化は、人々がいかにコミュニケーションをするか、どれくらい進んで自分を表わそうとするかを決める決定力です。日本に住む外国人として、「腹芸」や「以心伝心」を重んじ、この抽象的な言葉の陰に隠れ、公開の討論の場で外国人と対決することを避けるために、これを盾とする日本人によく出会いますが、これは明らかに西洋人と、また、アジア人とコミュニケーションするには、最善の方法ではありません。

日本人と外国人のコミュニケーションで、もう



一つの障害は、外国人が伝えたいと思っていることがわかった場合、日本人は自動的にそれに同意すべきだと信じているように見えることです。この考えから出てくる論理的帰結は、

不同意の場合、理解できないと表現することになります。意識的な単一民族である日本人にとって、次の混乱は、部外者であるため理解できないという理由だけで、同意しないということです。

ちょっとヨーロッパの地図を見てみましょう。約25の国家があります。これらの国は常に存在してきたわけではありませんが、過去2000年以上にわたり、民族同士で常にコミュニケーションや文化交流-乱暴なことが多かったけどーを繰り返してきました。そして、常に話し、聞き、戦い、守り、与え、もらう必要がありました。

日本人は、この種の国際交流がほとんどなかったため、外国人に自分のことを説明する必要がなく、分かってもらおうと思ったことがありませんでした。問題は、人々がそうしたいと思わないのに、(真に国際的なギブ・アンド・テイクの交流を得るため)外国人とのコミュニケーションを強いることができるかということになります。

姉妹都市活動室

姉妹都市活動室では、ミネアポリス市との姉妹都市提携10周年記念の公開講演会を10月27日(土)と11月17日(土)の午後2時から4時、市民総合センター(クリエイティブセンター)の303号室で開催します。テキスト(成美堂発行、エドウィン・O・ライシャワー著の「真の国際化とは」)は各自でご購入下さい。

例会は、毎月第1木曜日と第3土曜日に福祉文化会館(オークシアター)で行っています。

青少年活動室

青少年活動室では、国際交流の底辺を広げるため、中・高校生が気軽に参加して、外国人ゲストと話したり、歌ったり、ゲームをしたり、楽しみながら英語に親しむ、学校の授業とは一味違った英語のサロンを聞いています。

活動は、月一回、原則として第4日曜日の午後2時から福祉文化会館(オークシアター)で行っています。参加費は無料です。

市民海の家を利用して

秋の小豆島を訪ねてみませんか



7月にオープンした「茨木市市民海の家」

夏の海水浴客で賑わった小豆島も落ち着きを取り戻し、秋の観光シーズンを迎えています。

紅葉の美しい「寒霞渓」やオリーブとハーブの「オリーブ公園」など、見どころいっぱいの小豆島を、ご家族やグループで訪ねてみませんか。

お泊まりは、「市民海の家」をご利用下さい。詳しくは、市役所3階自治推進課まで。

料 金 表

区 分		料金	利用時間
宿 泊	1人1泊	大人(高校生以上)	16:00~ 翌朝10:00
		小人(小・中学生)	
		幼児(小学生未満)	
休 憩	1日1回	栈敷(1区画)	8:00~18:00
		客室(1室)	1,000円 11:00~15:00

※食事は別料金。事前に予約が必要です。

※12月29日～翌年1月3日は休業です。



紅葉の美しい「寒霞渓」

「市民海の家」を利用して

小川町 中西くみ子

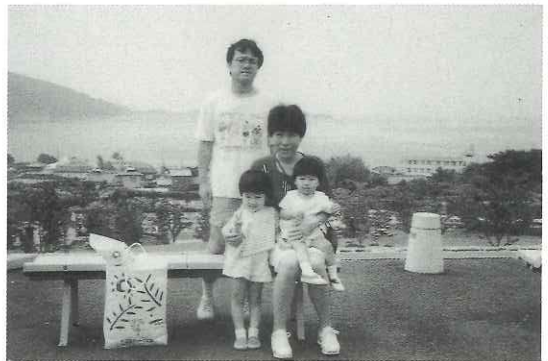
小豆島に「市民海の家」がオープンと聞き、私達家族は、早速、7月14日から利用させていただきました。

「海の家」のすぐ前は、美しい“オリーブビーチ”。初めて海で遊ぶ3才の娘は、貝拾いやトンネル作りをして大喜び。海水浴の後の温水シャワーが快適でした。

翌日は、「オリーブ公園」で自家製のハーブティーを味わったり、「二十四の瞳の岬の分教場」や「民俗資料館」等も訪ねましたが、1泊では行けなかったところがまだまだいっぱい。

今度は2泊して、魚釣りを中心に、秋の小豆島を楽しもうと計画しています。

何だか第2のふるさとが出来たようで、嬉しく思っています。



中西さんご一家（オリーブ公園から内海湾をのぞむ）

第2・第4土曜日休業します

市役所の4週6休制実施に伴い、協会事務局も、従来の日曜・祝日と合わせ、毎月の第2・第4土曜日を休業とさせていただきますので、よろしくお申し上げます。

10月15日～17日

安慶市書画展を開催

花博「茨木市の日」でも、会場となった大阪府「いちよう館」内『すきやねんプラザ』に安慶市の物産を展示し、本協会茨木市・安慶市友好都市委員会委員長清野耕作氏の収録してこられた安慶市紹介のビデオを上映しましたが、10月12日から安慶市代表団が来茨するのを機に、書画展を中心にして、物産展及び切手展を、10月15日～17日、市民会館（ユーアイホール）ドリームホールで開催いたします。

昭和62年7月にも、安慶市書画展を開催し、市民の皆様から好評を博しましたが、今回はその再現で、やはり書画の展示・販売をいたします。

どうぞ、安慶市の代表的作家による名作の数々をご覧くださいと思います。

また、並行して、安慶市物産及び中国切手を展示いたします。

物産展では、紡績品・日用品・食品・工芸品・



昭和62年の書画展会場

文具などを展示し、切手は、中日友好・名所旧跡・自然風物・古典文学・出土文物・歴史人物・文芸・スポーツ・経済建設のテーマに分かれます。

隣国の、本市の友好都市の工業製品や切手をご覧になり、そこで進んでいる近代化や産業、日常生活に思いをはせていただければと思います。

寄付

本市の国際交流事業の推進のためにと、次の方々から温かい

ご寄付をいただきました。ご好意に心からお礼申し上げます。（6月～9月、敬称略）

〈協会へ〉 8月・住友スリーエム(株) (10万円)

〈市へ〉 8月・茨木・摂津日韓親善協会 (30万円)

8月・(宗) 弁天宗冥応寺 (110万円)

9月・日本民謡朝鳳連合会 (10万円)

茨木市における国際交流の足あと

—— 第14号以降の経過 ——

(1990年)

- 2.5 安慶市友好都市委員会委員長清野耕作氏一行3人安慶市訪問
- 5 「'90小豆島オリーブマラソン」に市民21人参加
- 7 内海町での「茨木市市民海の家開き」に市民41人参加
- 7 ミネアポリス市・ユースシンフォニーズ一行105人来茨
- 7 茨木市少年サッカーチーム一行40人訪米。USA杯参加
- 7 ミネアポリス市少年野球チーム親善訪問団一行38人来茨
- 7 ミ市副市長R・ラブソン氏、ミ市議会前議長A・ラインビルさん、ミ市文化協会会長P・スパージョン夫妻来茨
- 7 ミネアポリス市音楽グループ一行6人来茨
- 7 花博「茨木市の日」に内海町から川西寿一町長、森福守議長ほか出演者63人参加。郷土芸能「獅子舞い」と「幟差し」を披露
- 8 内海町と「こども交歓事業」実施（茨木市から45人、内海町から76人が参加）



ビデオ取材中の清野氏



市民海の家開き



小豆島で鼓笛隊の歓迎